

第 5 回四万十市立小中学校再編検討委員会における主な意見等

平成 29 年 5 月 25 日
第 6 回 検 討 委 員 会

〔主な質問と回答〕

- 小規模校の定義はどうか。⇒定義について、わかりやすく記載する。
- 再編は、小学校で 2 回、中学校で 2 回統合を経験させてはいけないということで話しを進めてきたが、小中学校通して 1 回という条件になったのか。⇒再編経験回数を可能な限り少なくするために中学校から先に再編するとしたものであり、小学校で 2 回、中学校で 2 回統合を経験させてはいけないという方向性は変わらない。

〔主な意見〕

- 小学校の複式化の進展が早い。中学校の再編よりも喫緊の学校もあるように見受ける。
- 中学校の再編時期に関わらず、要望があれば小学校再編にも着手すべきでは。
- 小学校について、「一定の条件に満たないほど極小の規模になった学校においては」といった表現があれば、目標時期とは関係なく、必要性に迫られた時に再編に着手できるのでは。
- スクールバスの導入については明確に表現する必要がある。複数便で部活後の帰宅への対応も必要。
- 直接教育を受け、将来がかかっている子どもとその保護者の意見を第一とし、地域に理解を求める形で進める必要がある。

【確認事項】

- ◎中学校の再編目標時期は、最短で平成 33 年 4 月とする。
- ◎小学校の再編については、再編を判断すべき状況・条件を記載することとし、目標時期は定めない。
- ◎答申案のⅡの 3 の学校再編の必要性、Ⅳの 2 の再編の手順及びⅤの付帯意見については、次回の会議で審議する。